

評価要領

評価項目	評価の着目点		配点	評価	評価点
企業の業務実績 (10点)	平成23年度以降の同種業務の履行実績		10		
技術者の 資格及び経験 (35点)	管理 技術者	技術者が有する技術者資格	10		
		平成23年度以降の同種又は 類似業務の履行実績	10		
		手持ち業務(500万円以上)の 件数	5		
	担当 技術者	技術者が有する技術者資格	5		
		平成23年度以降の同種又は 類似業務の実績の内容	5		
業務実施方針等 (45点)	仕様書等の理解度		10		
	実施方針・手法の妥当性		10		
	工程計画の妥当性		10		
	技術者の配置計画の妥当性		5		
	地域特性・近年の災害被害の反映		10		
独自提案 (5点)	独自提案		5		
地域技術力 (5点)	地域の精通度(県内常駐技術士数)		5		
	評価点の合計結果		100		

(評価方法)

- 各評価項目についてA、B、Cの3段階評価を行うこととする。
- 各段階評価の配点を次のとおりとする。
配点が10点の場合：A=10点、B=6点、C=0点
配点が5点の場合：A=5点、B=3点、C=0点

(特定方法)

- いずれかの評価にC評価がある者は特定しない。
- 評価点が最も高い者を特定する。
- 評価点の最も高い者が同点の場合は、選定委員の多数決により特定する。
なお、同数の場合は、委員長の判断により特定する。

評価項目	評価の着目点	評価		
		A	B	C
1 企業の業務実績	平成 23 年度以降の同種業務の実績	2 件以上	1 件	実績がない
2 技術者の資格及び経験	(1)管理技術者 技術者が有する技術者資格	プロポーザル説明書に示した部門の技術士資格を有する	プロポーザル説明書に示した部門の R C CMを有する	
	平成 23 年度以降の同種又は類似業務の履行実績	プロポーザル説明書に示した a・b ともに同種業務の実績がある	プロポーザル説明書に示した a・b ともに類する業務の実績がある	実績がない
	手持ち業務(500 万円以上)の件数	0～4 件	5～9 件	10 件以上
	(2)担当技術者 技術者が有する技術者資格	プロポーザル説明書に示した部門の技術士を有する	プロポーザル説明書に示した部門の R C CMを有する	
	平成 23 年度以降に同種又は類似業務の実績の内容	プロポーザル説明書に示した a・b ともに実績がある※	左右に該当しない	実績がない
3 業務実施方針等	(1)仕様書等の理解度	的確に理解している	左右に該当しない	業務内容をよく理解していない
	(2)実施方針・手法の妥当性	特に優れている	左右に該当しない	妥当でない
	(3)工程計画の妥当性	十分検討されており高く評価できる	左右に該当しない	業務実施手法と矛盾が見られるなど、十分検討されていない
	(4)技術者の配置計画の妥当性	工程計画と整合し、必要と考えられる検討項目に十分な技術者が配置されている	左右に該当しない	工程計画との整合が不十分など、必要と考えられる検討項目に十分な技術者が配置されていない
	(5)地域特性・近年の災害被害の反映	特に優れている	左右に該当しない	反映していない
4 独自提案	独自提案	特に優れた提案がある	左に該当しない	
5 地域技術力	地域の精通度 (県内常駐技術士数) ただし、「建設部門」の「土質及び基礎」または「河川、砂防及び海岸・海洋」または「港湾及び空港」、応用理学部門の「地球物理学及び地球科学」または「地質」の技術士数。	県内に常駐技術士が 5 人以上	左に該当しない	

※複数の担当技術者により、a・b の分野の実績が認められれば、A と評価する。